

さいたま市長定例記者会見

令和3年7月21日（水曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社、東京新聞さん、進行をよろしくお願ひします。

○ 東京新聞 幹事社の東京新聞です。よろしくお願ひします。  
では、市長のほうからご説明お願ひします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。  
いよいよ明後日23日、東京オリンピック2020大会が開幕します。  
本市においては、サッカー及びバスケットボールの試合が行われます。選手や大会関係者の皆さんを心から歓迎するとともに、日本中の皆さんを元気にしてくれるような、そして心に残るすばらしい試合をしていただくことを心から願っています。

また、大会には本市にゆかりある多くの選手が出場します。市役所本庁舎と各区役所にお名前と出場種目を記した横断幕、また懸垂幕を掲出していますので、市民の皆様にはぜひ応援していただきたいと思っております。

この大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにそれぞれのご家庭でテレビで観戦をしていただくようお願いいたします。私も皆さんと心を一つにして、テレビの前で熱い声援を選手に送りたいと思います。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

### 市長発表：議題1「本市の新型コロナウイルス感染症の状況～今後のワクチン接種事業～」

議題1「本市の新型コロナウイルス感染症の状況～今後のワクチン接種事業～」について説明します。

まず、最新の本市の感染状況につきましては、7月19日時点で市内の検査で陽性が判明した方が累計で8,227名、うち調査中を含む感染経路不明者が3,840名、同日現在の陽性率は8.8%となっております。

直近1週間の新規陽性者数につきましては278名で、その前の週と比較しますと、新規陽性者数は80名の増加となっております。

また、ここ4週間における新規陽性者数の週別の推移を見ますと、増加が継続しており、感染の拡大が急速に進んでいる状況です。

今後の推移も踏まえた感染状況に関しては、非常に危機感を持っております。感染の再拡大を可能な限り抑えるために、積極的疫学調査のほか、感染防止対策をしっかりと行ってまいります。

次に、「市内居住者の感染傾向」について説明します。市内居住者の状況ですが、7月17日時点の「入院」、「宿泊」、「自宅」を合計した療養中の方は合計で415名となっており、1週前の298名から117名増加という状況です。

年代別では、20歳代の最多を筆頭に社会・経済活動の活発な年代の割合が高い状況が続いております。

感染経路が判明している方の経路の内訳について、直近8週間を4週間に分けて比較しますと、職場での割合が29%から34%と上昇しております。

感染の拡大期におきましては、職場などで発生した複数感染から、その後、家庭内感染につながる傾向がございます。市民の皆様には家庭内におきましても、引き続き基本的な感染防止策を徹底していただくようお願いいたします。

先週の梅雨明けにより、本格的な夏を迎えました。この時期の感染予防は、屋外で人と十分な距離が確保できる場合にはマスクを外すようにしましょう。マスクを着用する場合には、強い負荷の作業や運動は避け、喉が渇いていなくても小まめに水分補給を心がけてください。

熱中症予防にも十分配慮した上で、感染予防対策を実施いただきますようお願いいたします。

次に、ワクチンの接種状況について、説明します。グラフのとおり、左側の高齢者接種につきましては1回目接種済みが約81%、2回目接種済みが53%となっており、順調に進んでいるところです。

右側の12歳以上の対象者の接種につきましては、1回目接種済みが約25%で、2回目接種が約15%となっており、11月末までの70%完了を目標に接種を進めていきたいと考えております。

ワクチン接種の見込みと供給見通しについてですが、左上の円グラフの

とおり、7月31日までの対象市民のワクチン接種見込みは約23%となっており、おおむね順調に進んでおります。

右上の円グラフの供給見通しとしては、8月1日までに約35%となっております。

現状ではワクチン供給量が減少しており、今後の供給が不透明な状況となっておりますが、ワクチン供給状況を踏まえながら、11月末までの接種完了に向けて体制整備及び接種を進めてまいります。

次に、45歳から49歳の方の予約開始日時が決定したので、お知らせします。45歳から49歳の方の予約開始日時につきましては、8月31日火曜日10時からとなります。44歳以下の方についてはワクチン供給量を踏まえ、決定次第、順次お知らせします。

特設接種会場の市営桜木駐車場の新たな予約枠公開日時につきましては、7月23日金曜日10時に、8月2日月曜日から8月22日日曜日までの接種分の予約を開始します。

予約枠については、1日約1,500回の接種が可能となっておりますが、現時点でのワクチンの供給状況から平日で1日約500回分、土日では1日約750回分とさせていただきます。

また、予約については1週間ごとに順次受付を開始します。

初めに、7月23日金曜日10時から、8月2日月曜日から8日日曜日までの接種分の予約を開始します。

次に、7月30日金曜日10時から、8月9日月曜日から15日日曜日までの接種分の予約を開始します。

最後に、8月6日金曜日10時から8月16日月曜日から22日日曜日までの接種分の予約を開始します。

なお、今後のワクチン供給量により予約枠を調整することがあるため、変更になる場合がございます。

次に、市のワクチンコールセンターの電話番号等の変更についてです。さいたま市ワクチンコールセンターの電話番号等を現在のナビダイヤルからフリーダイヤルに変更します。

変更日時は、7月28日水曜日午前9時からです。電話番号は0120—201—178、ファクス番号は0120—289—139、料金は無料

です。

なお、フリーダイヤルへの変更にあたり、市報や全世帯向けに変更のお知らせのはがきを送付します。

続きまして、新型コロナウイルス感染症予防接種証明書の交付申請受付開始についてです。海外渡航予定がある方を対象に、ワクチン接種が済んだことを公的に証明する新型コロナウイルス感染症予防接種証明書の申請受付を開始します。

申請受付開始は7月26日月曜日から、申請対象は新型コロナウイルスワクチンを接種した方で、海外渡航の予定があること、さいたま市で発行した接種クーポン券または接種券つき予診票を用いて接種した方、この2つの条件に当てはまる方となるので、ご注意ください。

申請方法につきましては、当面の間、郵送による申請または区役所窓口で申請を受け付けさせていただきます。

いずれの方法でも、申請を受け付けてから交付まで1週間程度かかる予定となりますので、日程に余裕を持って申請していただきたいと思います。

なお、交付費用は無料です。

申請に必要な書類等の詳細につきましては、市ホームページに接種証明書の申請についてのページを用意しておりますので、ご確認いただきたいと思います。

## 市長発表：議題2「市税等の納付方法にスマートフォン決済を導入します」

続きまして、議題2「市税等の納付方法にスマートフォン決済を導入します～納税者の利便性向上及び接触機会の低減～」について説明します。

まず初めに、本市の市税の納付方法の現状と課題について説明します。現在の市税の納付方法は、金融機関や区役所、支所等の窓口やコンビニエンスストアでの納付といった対面による窓口納付と口座振替やペイジー、クレジットカード納付、さらにeLTAXによる地方税共通納税システムを利用した非対面の納付方法がございます。

このコロナ禍におきましても、市税の納付方法は窓口やコンビニエンスストアなどの対面による窓口納付が約70%を占めており、窓口以外の納付は約30%と低い状況です。

このため、新型コロナウイルス感染症対策としても、接触機会の低減を図る必要があるため、非対面による窓口以外の納付を推進し、納付割合50%以上を目指してまいりたいと考えております。

そこで、市税の納付にスマートフォン決済を導入することとしました。市税の納付方法としては市民の方の利便性を向上させるべく、先ほどの説明のとおり、窓口以外の納付方法を拡大してきたところです。

さらなるキャッシュレス化として、令和3年8月2日から市税がスマートフォン決済アプリで納付できるようになります。利用可能なスマートフォン決済アプリは、ペイペイ、エーユーペイ、ラインペイ、ファミペイ、ペイジー、楽天銀行コンビニ支払サービスとなります。

スマートフォン決済アプリによる納付方法について説明します。納税者の皆さんが、あらかじめスマートフォンにダウンロードした決済アプリを利用し、スマートフォンのカメラ機能で納付書のバーコードを読み取ることで、いつでもどこでもお支払いいただける納付方法となります。

納付できる税目は、市民税・県民税の普通徴収、固定資産税・都市計画税、固定資産税の償却資産、また軽自動車税の種別割、国民健康保険税の普通徴収です。それぞれ、お手元にバーコードが印字された納付書があれば利用できます。

スマートフォン決済を利用することによって、金融機関等の窓口やコンビニエンスストアへ行かなくても、いつでもどこでも、自宅でも24時間市税等の納付が可能となります。新型コロナウイルス感染症対策として、非対面納付により、接触機会を低減することができます。

また、利便性が向上することで将来的には、収納率の向上も期待できると考えております。

今まで窓口等で市税等を納付いただいていた方は、ぜひご利用いただきたいと思っております。

私からは以上です。

## 議題1に関する質問

### ○ 東京新聞

ありがとうございました。

市長からの説明について、マイクを使用して質問をしてください。

幹事社から何点かワクチンのことでお伺いします。まず、桜木駐車場の

件や、予約の話も発表してくださっているんですが、まず国からのワクチンの供給量が減ってしまうということで、例えば桜木駐車場であれば1日が3分の1とか2分の1の接種になってしまうということなんですが、さいたま市として今後、ほかの市町村であります、ワクチン接種を停止してしまうとか、そういうことがあり得るのかと、もしなかったとすればこれをどうやって乗り切っていくのかという考え方をちょっと教えてください。

- 市長 今、大方、示されている確定分に基づいて、計画を見直して、最低限この数だったら打てるだろうという予測を基につくっているところです。これより増えた場合には、特設接種会場を増やすことになると思いますし、接種数を増やすことができると思いますので、いずれにしてもワクチンの供給量ははっきりしませんと、予約を受け付けて接種できる体制を確定することは、現時点ではなかなか難しいです。

前々回の記者会見でも発表しましたが、さいたま市としては1日1万回以上打てる体制になってきておりますので、それに対応するには最低でも120箱分のワクチンが供給されないとできないことになります。これは、大体さいたま市（の人口）は日本全体の100分の1ですので、120万人分は大丈夫だという話もありますが、（1日）1.2万回分を打とうと思っても、その十分な量を確保できていないのが現状でして、私たちとしては十分な量を確保できるように、引き続き国や県にもお願いや働きかけをしていきたいと考えておりますが、ワクチンの供給状況に応じて、臨機応変に対応できるような体制を組んで対応していこうと考えております。

- 東京新聞 ありがとうございます。

それで、今少し出ましたが、第3の大規模接種会場についての検討状況、開設しないこともあり得るのかも含めて教えてください。

- 市長 第3の接種会場につきましては、私たちとしては11月末までに打ち終わりたいということを考えて準備を進めてきました。ただ、そのためには1日1万回は打っていかないと実現できないことになります。

ただ、ワクチンの供給量がどのように変化するかが分かりませんので、途中から供給量がかなり確保できるといった状況の中でもしっかり打てる体制を組んでいく必要があると考えております。第3の会場についても準

備、検討しながら、そういった対応も取れるようにしていきたいと考えております。

- 東京新聞      ありがとうございます。  
                  それでは、各社さん、お願いします。
- 毎日新聞      毎日新聞です。  
                  ワクチンメーターの部分で教えてください。接種が順調に進んでいるということでしたが、例えば現状53%の高齢者は、あと10日ほどであると17%接種が進むという見通しなのでしょうか。
- 市 長        現状、7月中はおおむね、1万件超ぐらい回数としては打てておりますので、順調にいけば、大体、希望する方々は7割と想定しておりましたけれども、そこまでは何とかぎりぎり打てるのではないかと見ています。
- 毎日新聞      高齢者はあと10日で70%いくと。  
                  右のほうの12歳以上の11月末までの70%は、今どういう見通しでしょうか。
- 市 長        今のところワクチンの供給量が確認できないと、どのぐらい打てるようになるか見通しが十分には立てられないというのが実態でして、かなり幅が出てきてしまうことになると思います。
- 毎日新聞      現状、ワクチン供給量が減っているわけですがけれども、今後、仮に回復したとしても11月末までに70%は厳しくなってしまったと考えてよいでしょうか。
- 市 長        現時点では何とも申し上げられませんが、どのタイミングでワクチンの数が増えてくるのかがすごく重要で、9月の後半、あるいは10月に入って増える状況ができて、急激に増やすといっても、そのキャパシティの問題がございます。できるだけ、それなりに増えたとしても対応できるような準備をしていくつもりですがけれども、定期的にどういう形で出されていくかという供給量によって変わってくると思います。  
                  私たちとしては、11月末までに接種を終えたいという思いを持っておりますけれども、とにかくワクチンの供給次第と、現状としては、1日1万回やっていくことで、市としては大体11月末までには終えられるだろうという目標でやってきておりますので、現状は1万件くらい打てていますがけれども、これから下回ってくることになりますので、その状況によって

11月中に打てるのかどうかが変わってくると思います。

- 毎日新聞      今後減ってくるものが、いつぐらいまでに前の水準に回復すれば、11月末の7割達成ができそうなのでしょうか。
- 市長            最後のほうで（ワクチンの供給）急にどんと出ても、急に増やして打てる状況をつくっていくということが、なかなか難しい部分があります。
- 長期的にどういう形で供給されていくのか、できるだけ明らかにしていただくことが、計画的にこのワクチンを接種していくためには大変重要なことだと思っております。できるだけ供給のスケジュール、量、これを明らかにしていただくことが、この11月末までに打てるかどうかの大きなポイントになると思っております。
- 毎日新聞      そうなると、シミュレーションがないということは、供給量が減ることが分かっている中で、11月までに70%達成可能かどうか現状では分からないということになるのでしょうか。
- 市長            現状では、当初予定していた数字が来ておりませんので、極めて厳しい状況にあると言えると思いますが、今後そのワクチンの供給状況によって、それは変わってくると思います。
- 毎日新聞      じゃ、それがいつ回復すれば達成できるかは分からない。
- 市長            回復という意味が、私たちが求めている以上に供給して、早めにそれが前倒しで供給していただけるような状況がつけられてくれば、間に合うこととなりますけれども、それがどんどん後ろ倒しになっていくと、難しくなると思います。
- 毎日新聞      繰り返しですけれども、期待する数字がいつぐらいに、例えば1か月、6月の数字でも何でも順調にいていた時期の数字にいつぐらいに戻れば、11月末までに70%接種完了できるのですか。
- 市長            大体1日1万件打つには（1クールで）120箱、さいたま市は必要になります。今、第11クールで86箱となっています。当面80箱分が確保されていますけれども、残りは調整枠で不明な状況ですから、その減らされた分がどう上積みされて、どのような時期に確保されるかによって変わってくると思います。
- 具体的な数字が示されないと、いつ頃できるということは、申し上げにくいです。



- 毎日新聞      そういう場合には、例えば、最低限の80箱だった場合にどうかとか、計算するものだと思いますけれども。
- 市 長      80箱だと当然11月末には間に合いません。
- 毎日新聞      ですので、80箱がどれくらいまでに、例えば120箱に回復すれば間に合うかというようなシミュレーションされているかと思うんですけども、その想定ですと、いつ80箱が120箱になれば間に合うものなのでしょうか。
- 市 長      2週間に1回送られてくるわけです。例えば今回、86箱になりますけれども、その120箱との差が34箱、その分がどの時点で回復されるか、あと120箱がきちんとそのまま維持されるかによって、全然変わってきてしまうのです。ですから、どの時期にとっても、今までより増える状況が生まれてこない、一定期間で計算しながら進めておりますから、減った分が上積みされてこない限りは、11月末には終わらないということです。
- 毎日新聞      それがいつかを聞いているんですけども、その計算は市としてはやっていないのですか。
- 市 長      80箱と想定した場合ですか。調整枠がゼロだったという想定ですか。
- 毎日新聞      80箱だったとして、それが何週間か続いて、例えばここまで120箱に回復すれば、当初想定していた11月末までに間に合うけれども、ここを超えてまだ80箱が続いたらと厳しいというような計算はしていると思うんですけども、その数字を教えてください。
- 市 長      120箱がずっと続いていたら、11月末までに（終えられる）ということで報告していますから、それが減った分は当然後ろに倒れてくるということです。それが、定期的にどのぐらいの数が出されるかによって、時期は変わってくるのです。
- 毎日新聞      そうすると、減った時期が出てしまうと、11月末は難しい。
- 市 長      その分が上積みされて、私たちが求めていた箱数に、さらに上積みされてくるような状況が出てくれば、当然11月末までに可能だということです。
- 毎日新聞      ただ、その場合ですと、第3の特設会場も今後できますけれども、打ち手の問題が出てきたりはしないんですか。

○ 市長 ある程度、(供給量が) 増えたときにも対応できるように、能力としては私たちが持つておこうと思って、今、第3の接種会場も含めて準備はしておく。ただ、準備はしているけれども、ワクチンが来ないと打てないということです。

130箱来ても、打てる状況はつくれるわけですがけれども、それがいつ来るかが分からない以上、ワクチンが来てからでないと、いつ頃終わるかというのは言えない。11月末を予定したとしても、かなり厳しくなるということです。120箱ずつずっと来て11月末、と申し上げて、これは職域接種や違う接種は含んでおりませんから、そちらでたくさん打っていただく状況ができれば、その状況は変わってきますけれども、基本的に私たちが打つ分という、毎日1万回、1週間ベースという7万回、それを打つには1クール、2週間で120箱分がないとできないということになりますから、少なくなった分、その120箱と比べて上積みされてこない、その期間を短縮することはできないですね。打つ体制については、また急に(供給量が) 増えることもあり得るので、準備はしておきたいと思っています。ただ、それがあまりにも過度に、後半になってくると、11月末は難しくなるかもしれない。ただ、あくまでも目標としては11月末までには打ちたいと思って、準備をしているということです。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

ワクチンですけれども、国は11月末までに打ちなさいと言いながら、ワクチンの供給量は不安定で、供給量が減っているという今の現状の政府に対して、市として何かおっしゃりたいことはありますか。

○ 市長 ワクチンをしっかり確保していただきたい。ワクチンを供給できるスケジュールと個数を、できるだけ詳細を早めにお知らせいただきたいということです。供給に合わせて打つしかないのです。私たちが、できるだけ早く打ちたいのです。打てる体制もつくりたいのですが、しっかり国で供給し、そのスケジュールと具体的な数を明らかにしてくださいということです。

○ 埼玉新聞 そうなんですけれども、今現状、国も混乱しているのかもしれないですけれども、全然言えていないじゃないですか。これに対して本当に怒りがあってもいいと思うんですけれども。

○ 市 長      それはみんな怒っていますけれども、私たちは、市民の皆さんのために一日も早くワクチンを接種することで感染拡大を防止し、また、今さいたま市も長い期間、まん延防止等重点措置期間の中で対象エリアになって、多くの皆さんに我慢していただいたり、営業自粛などをやっていただいているので、できるだけ早くワクチンを接種することで、その局面を変えたい。これは、国も一緒だと思いますけれども、そういう状況ですので、できるだけ混乱のないように、しっかりと進めていきたいと思っております。

そのためには、ワクチン供給のスケジュールと量をできるだけ具体的に示していただく。それが急に数が変わられると、増えるにしても減るにしても、非常に困ります。どこの自治体もそうだと思います。今までは、みんな信じてその接種体制を組んできて、ようやくフル稼働してきたところでこういう事態ですので、私たちも困惑していますし、毎日のように、ワクチンについてどうするかという議論、会議を行っています。市民の皆さんに不安がないように、できるだけ早くスムーズに打っていただけるように全力を挙げていくつもりですので、国としてもそういうスケジュールをしっかりと明らかにしてほしいと思います。

○日本経済新聞      日経新聞です。

今のワクチンの供給量に関連してなんですけれども、具体的に国に要望することとしてワクチンのスケジュールと、あと量をできるだけ具体的に示してほしいということなんですけれども、それをさいたま市として、何か国だったり県に要請したりするお考えはあるのかということと、あと特に今、首都圏での感染拡大がかなり広がっていて、それがどんどん全国に波及しているような状況だと思うのですけれども、さいたま市も東京都に近いわけで感染者数もかなり増えている中で、首都圏、さいたま市にワクチンを、今供給量が少ない中ではありますけれども、厚めに配分してもらおうとか、そういった要請をするお考えはあるのでしょうか。

○ 市 長      今のご質問については、国に対しては既に実施しました。また、県についても既に実施しました。

やはり感染者が多い地域をしっかりと抑えていかないといけないと考えておりますので、首都圏や、首都圏の中でも特にまん延防止等重点措置の対象区域になっているエリアに、しっかりとワクチンを配分していただかな

いと抑えることが難しいと考えています。ですから、そういった要望は、国に対しても県に対しても、既に行っています。

○日本経済新聞 改めて、また何か要望するお考えであったりとか、ほかに付け加える要素とかあれば教えてください。

○市長 供給量が十分確保できない時期が続くとすれば、どこを優先して配分していくのかは、十分、国においても県においても検討していただく必要があると思っています。どうやったら感染者を防いでいくことができるのか、また経済的な影響も少なく済むのかという視点から、おのずと、限られている部分ということであれば、優先的に配分されるエリアは選定できるのではないかという気はします。

日本中の皆さんがワクチンを待っているわけですが、そういった方向性をしっかり示していただきながら、配分していただきたいと思えます。

### 幹事社質問：東京五輪に関して

#### ①無観客開催への所感

#### ②おもてなし事業の予定、予算額

#### ③中止事業予算の使途予定

○東京新聞 それでは、幹事社質問のほうに移らせていただきます。質問はまとめて行いますが、五輪に関してお伺いします。

先ほど市長のご挨拶でもありましたけれども、明後日が開会式、今日もう競技が始まっている種目もあります。さいたま市内を会場とするバスケット、サッカーは、いずれも無観客での開催が決定しました。改めて、この無観客になってしまったことへの所感をお聞かせください。

それから、続いて有観客を想定して進めていたおもてなしのサービスなど、中止になったという事業も幾つかあると思いますが、そのまま行うもの、選手ですとか関係者とかいらっしゃるもので、そのまま行う事業もあると思いますし、中止になったものもあると思います。改めて、それぞれを教えてください、予算額を教えてください。

その中止になって執行できなかった予算は、どのように活用される予定なのでしょうか。もし使途がほかに振り分けるところが決まっているのであれば教えてください。

以上3点です。

○ 市長 それでは、幹事社の質問に順次お答えします。

まず、1点目の無観客になったことへの所感についてです。前回の記者会見でも申し上げたとおり、8日の5者協議後に開催された関係自治体等連絡協議会の場におきましても、現状の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、市内競技会場については無観客開催を申し上げたところであり、大会の開催に当たりましては、市民の安全を最優先に考えると、無観客はやむを得ないことだと考えております。

一方で、57年ぶりに開催される東京2020大会の観戦を楽しみにされていた多くの方々、特に子どもたち、また、おもてなしの準備に関わってくださった多くの方々のことを思うと、大変残念な思いでいっぱいです。さらに、大会に向けて練習を積んでこられた選手の皆さんの心中を察すると、大変心苦しい限りです。

その分、市民の皆様には自宅でテレビ観戦を通じて選手を応援していただいて、オリンピックを盛り上げていただきたいと思います。

続きまして、2点目のおもてなし事業の実施、中止状況及び予算額について申し上げます。観客等へのおもてなしの取組については、昨年度、大会延期の決定を受けて一度予算を減額し、事業規模や新型コロナウイルス感染症の対策経費なども含めて精査した上で、再度予算措置を行ってきたところです。

予定どおり実施する事業としては、6月から市内の主要駅等への都市装飾や、特設サイトを通じた市のPRを開始しております。これらの事業の予算額は総額で1億324万2,000円となっております。

一方で、中止にせざるを得なかった事業としては、海外からの観戦客をターゲットとして考えておりました日本酒PRイベントや、飲食を伴う氷川参道おもてなし事業、また集客を伴う観光資源を活用した周遊イベントのほか、パブリックビューイング、市内回遊バス、競技会場周辺での市の魅力発信事業などについても中止することを決定しております。なお、市の魅力発信事業については、代替プランとして、特設サイトや市のホームページを活用したオンライン配信に切り替えて開始しております。中止にした事業の予算額は総額で3億2,400万2,000円となっております。

す。

続きまして、3つ目のご質問、中止で執行できなかった予算の活用、使途予定についてですが、事業の中止により執行できなかった予算につきましては、現時点では使途が決まっているものはございません。執行できなかった予算の活用につきましては、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、その財源を新型コロナウイルス感染症対策などへ活用することも検討してまいりたいと考えております。

以上です。

### 幹事社質問に関する質問

- 東京新聞      今、無観客なんですけれども、一部報道で何か有観客にしたほうがいいんじゃないかと組織委の方がおっしゃったというような報道もあったりとか、あとはアスリートの方としてはやっぱり有観客でやってほしかったというサッカーの選手とかもおっしゃったりしていますが、どうも何か今あまり方針が割とぐらぐら動いてしまうので、世論に押されてやっぱり有観客にするというのがゼロではないと思うんですけれども、やっぱり市長としては無観客は致し方ないし、このまま続けたほうがいいんじゃないかという感じでよろしいでしょうか。
- 市 長      現時点の感染状況を見ますと、やはり無観客のままが妥当ではないかと思っております。
- 東京新聞      あと、ちょっとあまり関係ないんですけれども、市長、今日ポロシャツ着てやっておられるんですけれども、これはオリパラ期間中はずっとそういう感じで執務されるのでしょうか。
- 市 長      できるだけそのつもりでいます。
- 東京新聞      やっぱり市でやっているよというPRも兼ねてということでしょうか。
- 市 長      そうですね。直接会場に行って、見たり盛り上げることはできませんけれども、その分テレビ等で見ていただいて、心で選手を応援していきたいと私自身も思っておりますので、できる限り、天気とか気候にもよりますけれども、こういったものを着て盛り上げられればと思っています。
- 東京新聞      市長ご自身が市内の会場に視察とかいった形で行かれるという可能性はあるのですか。
- 市 長      対応状況を見に行くということについてはやろうかと考えております。

ただ、試合そのものを見るということは考えておりません。

- 東京新聞      またいつ行かれるかとか可能であれば教えていただければと思います。  
                         幹事社質問は以上です。関連でご質問ある方はお願いします。  
                         では、なさそうなので、そのほかの質問がある方は、どうぞお願いします。

### 議題 1 に関する質問

- 日本経済新聞      日経新聞です。  
                         市長ご自身のワクチンを接種できるご予定はあるのかどうか伺いたいですけれども、埼玉県の大野知事は今日接種券が届いて、今日からちょうど予約できるような時期になって、何か一生懸命予約するという話があったようなのですけれども、市長はどういうふうに考えているのか、教えてください。
- 市 長              私も市民の皆さんと同じタイミングで来た接種券を活用して打つという方針で決めておりました。私の場合は、60歳から65歳のタイミングで接種券が届きました。既に自分でスマホで予約して、1回目は接種しました。
- 日本経済新聞      ちなみに1回目はいつされたんでしょうか。
- 市 長              後ほど。
- 日本経済新聞      実際に接種会場で受けられたということですか。
- 市 長              そうです。
- 日本経済新聞      受けてみてのご感想とか、もしあれば教えてください。
- 市 長              接種自体は、市営桜木駐車場の特設接種会場で受けました。まず、非常に順調に、ほとんど待つことなく、順調に打てたという感じですが、打った感覚としては、そのときは特に痛みはありませんでした。ただ、翌日は、ちょっと発熱がありました。
- 日本経済新聞      そういうことを受けて、ご自身の経験を踏まえて、こういうふうに改善策の方向を改めたりとか、何かそういうものがあれば教えてください。
- 市 長              特設接種会場や集団接種会場については、私も接種する準備の段階や、接種している段階、何度か視察させていただいて、極めて順調に運営されているという感じを持っておりましたので、運営そのものについては、特に改善すべき点というよりは、もう少し場合によっては接種する回数を増

やしても大丈夫ではないかと思っておりますけれども、これはワクチンが来ないことには簡単には増やせませんので。それ以外は、現状としては、そこに携わっているスタッフの皆さんも非常に分かりやすく説明をしてくださり、また次のところへ行くときは皆さん手を挙げて、こちらですよとってご案内もきちんとスムーズにできているので、非常に集団接種会場、あるいは特設接種会場については、順調に運営がなされているという印象です。

また、ワクチンを接種したことでいいますと、やはり人によって副作用というのでしょうか、翌日いろいろな体調の変化もあるので、その辺については十分ご留意をした上で打っていただきたいと、お知らせしたいと思っています。

(接種した) 日には7月10日です。

### その他：さいたまクリテリウムについて

#### ○ 朝日新聞

朝日新聞です。

昨日さいたまクリテリウムの見送りを発表いただきました。残念ながら2年連続見送りなのですけれども、いただいたコメントの中で、次回の大会に向けてスポーツコミッションとまた協力していきますというコメントがありました。実際2年見送られて、市民も残念がっていると思っているんですけども、来年、もしくはそれ以降に向けて、何かさらにクリテリウムを市民に楽しんでもらうためのお考えがあれば。

#### ○ 市長

残念ながら昨年、また今年と2年連続して開催することを見送らせていただきました。やはり市民の皆さん、あるいは選手の皆さんの安全面を考えると、やむを得ない選択だったと考えております。2年開催することができなかったという部分も、来年もコロナの感染状況を見ながらになると思いますが、できるだけ今までより少しパワーアップした形のものにしていきたいと思っておりますので、今、こういうことをやりますということまでは申し上げられませんけれども、今度やると3年ぶりになるのでしょうか。来年、できればコロナの感染拡大を抑えられた状況で大会ができることを望んでおりますので、それに向けて、日本、あるいはさいたま市、みんなが元気になる、まちが元気になる一つの契機になるような大会にしていきたい。そのために、中身についてもこれからさらにブラッシュアッ



プしていきたいと考えております。

## その他：さいたまスポーツコミッションの会長について

- 朝日新聞      あとあわせて、昨日スポーツコミッションの池田会長が替わられるという人事の発表がありました。この異動についてもちょっと所感を教えてください。
- 市 長      先日、遠藤新会長から報告いただきまして、ちょうど（前会長が）6月22日付で退任されると伺いましたので、それを受けて7月6日の理事会でこれを正式に決定しますと。新会長は、7月9日にお見えになって、（池田会長が）退任されて新しい会長になりましたということで、ご報告を受けました。2年ちょっとですが、その間、池田会長の下に、さいたまスポーツコミッションという組織を運営し、また多くの一般の企業の皆さんにいろいろご協力をいただきながら一般社団としてずっと運営されてきた組織ですので、さらに自立化を目指して、この数年間の経験を生かして、さらにスポーツコミッションとして発展していただきたいという思いを持っております。
- 朝日新聞      特に池田会長が務められた期間で、その成果というか、市長としてここはよく頑張ってもらえたと思われるところってどこでしょうか。
- 市 長      立ち上がりの時期でしたので、組織がゼロから立ち上がってくるという部分ではいろいろ大変なこと、難しいこともあったかと思えますけれども、そのスタートした組織としては一定の基礎を作っていたかと思っております。

## 幹事社質問に関する質問

- 朝日新聞      あと1点、先ほど幹事社の質問があった五輪のイベント事業についてです。残念ながら数多くのイベントが中止になりました。ただ一方で、さいたまスーパーアリーナと埼玉スタジアムで五輪の競技があるというのはもちろん変わらないんですが、あと今後五輪が開かれたさいたま市でレガシーになるようなものって何か残るのかなと。いろんなイベントがなくなって、その辺について市長はどう考えていますか。
- 市 長      直接会場に足を運んで、例えば子どもたちは見ることはできなかったし、またキャンプ地として手を挙げていたわけですが、残念ながらオランダチ

ームは来られなかったということがありましたけれども、このさいたま市でサッカーとバスケットボール競技が行われているということは、もう間違いない事実です。私たちは、これまでもサッカーのまち、スポーツのまちを一つのまちづくりの柱にしてやってきたつもりでいます。さらに、オリンピックの中でこの2つの競技が行われたことは、私たちにとって、これからのまちづくりをしていく上でも大変大きなことだと思っておりますので、これからサッカー、バスケットボールはもとより、スポーツをすることの楽しさ、あるいはスポーツをすることのよさを、市民の皆さんにオリンピックが終わった後も感じていただけるような環境を整備する、それから機会をつくっていくことを積極的にやっていきたい。

さいたま市は、このオリンピックを、そこだけを目指してきたわけではありませんけれども、週1回以上スポーツをする市民の割合を70%という目標を前の計画では立ててやってきました。これは、日本一の高い目標です。残念ながら、結果でいうと66.6%、これは日本全体、国が掲げていた65%は上回ることはできましたけれども、残念ながら70%を超えることはできませんでした。けれども、ここ7、8年の間で39.8%だったのが66.6%まで大幅に上がってきたのです。ですから、これからもやはりオリンピックが行われたまちとして、スポーツをまちづくりに生かしながら、これからさらにスポーツの楽しさも含めて市民の皆さんにしっかりと感じていただいて、スポーツを活用したまちづくりをさらに強化していきたいと思っております。

### その他：さいたまクリテリウムについて

- 毎日新聞 クリテリウムに関して市長の考えを1点伺いたいのですけれども、現在ワクチン接種が高齢者で進んでいて、高齢者の感染症や重症者がかなり減っています。10月末であれば、12歳以上も接種が進んでいて、ユーロで6万人観客を入れたようにクリテリウムもできたという考え方もできますけれども、そういった選択肢はなかったのでしょうか。
- 市長 いろいろなケースが考えられるわけですが、やはりそれを受け入れていく市民の思いや、そのときのいろいろな状況なども総合的な見地から判断して今年は見送ることが適当だろうということで、それぞれが考えて、今年度見送りとさせていただきます。もちろんそういう考え方もあ

るかもしれません。ただ、基本的には、私たちとしては、よりいい選択として、そういう方法を選んだということになります。

- 毎日新聞      あと、時期なのですけれども、決めたのが今の時期というのは、国際大会としてはこの辺がぎりぎりだったということなのではないでしょうか。
- 市長          やはりこれまでずっとスポーツコミッションとツール・ド・フランスを運営しているASOとの協議を早い段階からずっとやってまいりましたので、最終的に、この時期に合意ができて、それを発表させていただいたということだと理解しております。
- 埼玉新聞      クリテリウムの話なのですけれども、今、現状感染が拡大している中で逆に五輪が行われるんですよね。クリテリウムは数カ月後の予定で、それは中止しますという、その何か矛盾を感じるんですけれども、その点はどう思いますか。
- 市長          クリテリウムについていうと、都市部で行われて、そのレースを間近に見られるところに魅力があると感じています。ですので、テレビで観戦というよりは、実際にやはり会場に来て、その間近にレースをしている風や音、そういったものを間近に聞きながら見るのが醍醐味といたしますか、楽しさだと思っておりますので、そういった意味では、現時点で終息が必ずしも見えていない状況の中で、それをやっていくことは、難しいのではないかという考え方をしたということです。

### 議題 1 に関する質問

- 埼玉新聞      あと、別ですけれども、五輪開催中も保健所の体制は強化されるのか、あとワクチン対策室も結構人的に大変なようで、その辺の人事とか検討されていますでしょうか。
- 市長          ワクチン対策とか保健所の状況については、オリンピックとは関係なく強化すべきところは強化し、またワクチンへの対応についても対策室だけではなくて、もう少し幅広い形で部局横断的に対応していこうということで既に進めさせていただいておりますので、そういった中で必要な人を配置したり、必要な体制の中でそれを進めて、これからも引き続きしていきたいと思っております。
- 埼玉新聞      先ほどのワクチン接種で発熱がありましたと言われたのですけれども、どれぐらいで下がったということですか。

- 市 長 翌日の午後ぐらいにちょっと熱っぽい感じがしたので、熱を測りましたら37.6度ぐらいでした。でも、翌日の朝にはもう下がっていました。あと、ちょっと腕の痛みがありましたけれども、特にものすごくだるいとか、そういった感じではなかったということで、生活する上において特に支障があったわけではありません。
- 埼玉新聞 そうすると、7月10日ということは、(2回目)7月31日とかに当たるということですか。
- 市 長 そうです。
- 東京新聞 ほかによろしいですか。
- では、どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了します。
- 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
- なお、次回の開催は8月5日午後1時半からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時28分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。